

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		バングラデシュ・チッタゴン市におけるリサイクル事業を通じての廃棄物政策の再検討			
研究テーマ (欧文) AZ		Socio-economic approach to Solid Waste Management and Recycling Business in Chittagong, Bangladesh			
研究氏 代表 者	カナ CC	姓) ミヤケ	名) ヒロユキ	研究期間 B	2005 ~ 2006 年
	漢字 CB	三宅	博之	報告年度 YR	2007 年
	ローマ字 CZ	MIYAKE	HIROYUKI	研究機関名	北九州市立大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		三宅博之 北九州市立大学法学部政策科学科 教授			
概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)					
<p>人口が急増しているバングラデシュは数々の都市環境問題に直面している。中でも廃棄物問題は非常に深刻である。他方、インフォーマル・セクターでは廃棄物の中から有価物を回収し、再製品として再生産・販売するリサイクル産業が盛んである。双方は緊密な関わりを有しているにもかかわらず、インフォーマル・セクター内でのリサイクル産業の実態は全く研究されていなかった。そこで、代表者：三宅博之と共同研究者：マハブブル・チョウドリは、廃棄物管理政策におけるリサイクル産業の重要性を考慮に入れながら、バングラデシュの第二の都市チッタゴンにてインフォーマル・セクター内でのリサイクル産業の実態を調査した。チョウドリが古紙リサイクル産業(工場調査)、三宅が有価廃棄物回収に携わる児童の調査をそれぞれ行った。調査方法は調査票による調査と聴き取り調査である。</p> <p>調査結果は以下のとおりである。フォーマル・セクターでの製紙産業は海外から古紙を大量に輸入しているが、インフォーマル・セクター内での古紙リサイクル工場の大半は国内からの古紙に依存している。入ってくる古紙及び使用機械の質はかなり違っており、後者での再製品は上質ではないので再生紙の単価は非常に安い。そのため、インフォーマル・セクター内での工場労働者の賃金や労働条件は非常に悪くなっている。</p> <p>有価廃棄物を回収している児童については、通常、ベンガル語で「トカイ(路上をさまよう浮浪児)」と呼ばれ、一般市民からはいい印象を持たれてはいないが、実態はその逆であった。意外に就学率が高かったこと、収入は労働時間に比例しており、就学児童の場合、平日は収入が少ないが、休日には非就学児童と同じぐらい働き、収入を得ていること、稼いだ現金の大半を保護者に渡していることに関しては新たな発見であるし、しかし、作業中の罹患率が高いこと、泥棒と間違えられて他人から叱責されること、「ごみ拾い」にまつわる偏見を友人から持たれていることなど大変苦労していることも事実である。</p> <p>現在、バングラデシュではリサイクル関連の法令は全く制定されていない。今後、廃棄物管理政策の中でのリサイクルを考える場合、上記の調査結果(資源保護、産業基盤の確立と安全衛生、児童の人権と貧困緩和など)も考慮に入れる必要がある。</p>					
キーワード FA	バングラデシュ	リサイクル	児童労働	廃棄物管理政策	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	Bangladesh・チッタゴンの有価廃棄物回収児童「トカイ」—そのイメージとリアリティ							
	著者名 ^{GA}	三宅博之	雑誌名 ^{GC}	アジ研ワールド・トレンド					
	ページ ^{GF}	31~32	発行年 ^{GE}	2	0	0	7	巻号 ^{GD}	145号
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}	小島道一編							
	書名 ^{HC}	(仮題) アジアのリサイクル							
	出版者 ^{HB}	JETRO・ アジア経済研究所	発行年 ^{HD}	2	0	0	8	総ページ ^{HE}	約300頁
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要^{EZ}

The second largest city of Bangladesh, Chittagong has rapid population growth, which has brought severer waste disposal problem. Wastes produce a wealth in the form of recycling. Chittagong has a big scale recycling market where many people of lower class are employed.

Although recycling can be understood as an important factor in terms of waste management policy as well as economic growth, the number of research in both quality and quantity is so limited in Bangladesh. So, we decided to start to research about the recycling system of Chittagong. Prof. M.A. Choudhury focused on paper reproducing factories from economic point of view, while Prof. H.Miyake on child labor of waste picking.

The findings are as follows;

1. Paper reproducing factories in a informal sector handle waste paper collected from street/house or small factories. On the other hand, the certain size of factories in a formal sector tend to import the volume of waste paper from abroad. The big difference in quality of paper, volume of production and kind/size of machines in factories lead to the difference of labor condition. An Informal sector shows worse labor condition of safety- hygiene and wage.
2. Waste picking children called 'Tokai' in Bengali means Floating boys /girls on street with tiny works and with prejudice. But, it is not a reality. Survey shows that many are going to school for study and their income support the family income. They face both danger of disease and threat of adult men like gate-keepers. Their role to reduce environmental burden and poverty can be highly evaluated.

Bangladesh has not introduced recycling policy properly in environment protection field. So, next generation must understand the necessity of recycling and introduce the proper recycling system, considering the above findings.

